



Sun Fire™ V490 サーバー ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-7472-10
2004 年 8 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun Fire、SunSolve Online、SunVTS、OpenBoot、Sun StorEdge、Jump Start は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire V490 Server Product Notes
Part No: 817-4193-11
Revision A



目次

マニュアルの改版履歴	1
オンラインマニュアルへのアクセス	1
プリインストールソフトウェア	2
ソフトウェアおよび OpenBoot ファームウェアの要件	2
必須および推奨ソフトウェアパッチ	3
Solaris 9 の必須ソフトウェアパッチ	3
Solaris 9 の推奨ソフトウェアパッチ	4
Solaris 8 の必須ソフトウェアパッチ	4
Solaris 8 の推奨ソフトウェアパッチ	5
ハードウェアの問題	6
ファントレーはホットプラグ対応でないため、システムの動作中に取り外さない	6
M6 ねじを使用する必要があるキャビネットへのサーバーの取り付け手順	6
サーバーと SC カードのシリアル接続には、シールド付き RJ-45 ケーブルを使用する	6
ソフトウェアの問題	7
Sun Remote System Control (RSC) 2.2.2 ソフトウェア	7
OpenBoot PROM の診断操作の拡張	7
Sun Management Center ソフトウェアのサポート	8
Sun StorEdge Traffic Manager ソフトウェア	8

マニュアルに関する注意事項 9

Sun Management Center 3.5 のサポート 9

OpenBoot ファームウェアのマニュアル 9

Sun GigaSwift Ethernet Adapter のマニュアル 9

RSC マニュアルの場所 10

制限事項 10

OpenBoot PROM 拡張診断が有効である場合、または制御スイッチが診断位置に設定されている場合に、警告が表示されずに RSC コンソールがシステムコンソールに切り替わる 10

オンボードの Ethernet ポートは Gigabit の半二重モードで動作しない 11

SunVTS の実行中、`loghistory` でディスクエラーが報告されるが、SunVTS または Solaris ではエラーが報告されない 11

ce0 および ce1 11

負荷が高い状況で `sync-TTCP` テストを使用すると、GEM インタフェースが接続を切断する 12

Sun Fire V490 サーバーのご使用にあたって

このマニュアルは、Sun Fire™ V490 サーバーに適用されます。このマニュアルには、ほかのマニュアルを発行したあとで判明したインストール、機能、および既知のシステム制限に関する重要な情報が記載されています。

マニュアルの改版履歴

このマニュアルの初版は、2004 年 8 月発行の 817-7472-10 です。

オンラインマニュアルへのアクセス

Sun Fire V490 サーバーをサポートするすべてのオンラインマニュアルは、次の 2 つのサイトから入手できます。

- <http://docs.sun.com>
- <http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/>

いずれかのサイトを定期的にチェックして、このマニュアルの最新版など、Sun Fire V490 サーバー製品のマニュアルの最新版を確認してください。

プリインストールソフトウェア

Sun Fire V490 サーバーには、Solaris オペレーティングシステムおよび Java Enterprise System ソフトウェア (以前の Sun ONE ソフトウェア) がプリインストールされています。プリインストールされたソフトウェアの使用方法については、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/software/preinstall>

ソフトウェアおよび OpenBoot ファームウェアの要件

次の表に、Sun Fire V490 サーバーの Solaris™ オペレーティングシステムおよび OpenBoot™ PROM ファームウェアの最小要件を示します。

CPU/メモリーボードの速度	Solaris オペレーティングシステムの最小要件	OpenBoot ファームウェアレベルの最小要件*
1050 MHz	Solaris 8 2/04* Solaris 9 4/04*	OpenBoot ファームウェア 4.15.0*

* または、システムでサポートされる互換バージョン

Sun Fire V490 サーバーに適切なバージョンのオペレーティングシステムがインストールされていることを確認するには、`/etc/release` ファイルを調べてください。このファイルに「Solaris X X/XX」という文字列か、Sun Fire V490 システムと互換性のある Solaris リリースを示す文字列が含まれていることを確認します。

サーバーに現在インストールされている OpenBoot ファームウェアのバージョンを特定するには、次のいずれかの方法を実行します。

- Solaris オペレーティングシステムの動作中に、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/prtconf -v
```

または

- ok プロンプトから、次のコマンドを入力します。

```
ok.version
```

OpenBoot ファームウェアの入手およびインストール方法については、3 ページの「必須および推奨ソフトウェアパッチ」を参照してください。

必須および推奨ソフトウェアパッチ

この節では、Sun Fire V490 サーバーのソフトウェアパッチの一覧を示します。これらのパッチは、ご購入先から入手するか、次の SunSolve OnlineSM Web サイトからダウンロードできます。

<http://sunsolve.sun.com>

このマニュアルでは、サーバーにインストールされている Solaris オペレーティングシステムのバージョンごとにパッチの一覧を示します。パッチのインストール手順については、各パッチに添付される README ファイルを参照してください。

Solaris 9 の必須ソフトウェアパッチ

次の表に、Solaris 9 4/04 オペレーティングシステムがインストールされている Sun Fire V490 サーバーに固有の必須パッチの一覧を示します。これらのパッチは、このマニュアルの発行時点で入手可能なものです。

Solaris 9 がインストールされた Sun Fire V490 の必須パッチ

パッチ ID	説明
112233-12 以降	SunOS 5.9: kernel パッチ
112817-17 以降	SunOS 5.9: SunGigaSwift Ethernet 1.0 ドライバパッチ
111847-08 以降	SAN Foundation Kit パッチ (MPxIO/leadville)*
113039-04 以降	SunOS 5.9: Sun StorEdge Traffic Manager パッチ*
113040-06 以降	SunOS 5.9: fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ*
113041-04 以降	SunOS 5.9: fcip ドライバパッチ*
113042-04 以降	SunOS 5.9: qlc ドライバパッチ*
113043-05 以降	SunOS 5.9: luxadm, liba5k、および libg_fc パッチ*
113044-04 以降	cfgadm パッチ*

Solaris 9 がインストールされた Sun Fire V490 の必須パッチ (続き)

パッチ ID	説明
113447-13 以降	SunOS 5.9: libprtdiag_psr パッチ
117171-05 以降	SunOS 5.9: kernel パッチ
115553-10 以降	SunOS 5.9: USB ドライバおよびフレームワークパッチ

* パッチ 111847、113039、113040、113041、113042、113043、および 113044 には、パッケージ SUNWsan (San Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、次の Sun Download Center から入手できます。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップグレードをダウンロードしてください。

Solaris 9 の推奨ソフトウェアパッチ

次の表に、Solaris 9 4/04 オペレーティングシステムがインストールされている Sun Fire V490 サーバーに固有の推奨パッチの一覧を示します。このパッチは、このマニュアルの発行時点で入手可能なものです。

Solaris 9 がインストールされた Sun Fire V490 の推奨パッチ

パッチ ID	説明
116363-07 以降	RSC 2.2.2 パッチ

Solaris 8 の必須ソフトウェアパッチ

次の表に、Solaris 8 02/04 オペレーティングシステムがインストールされている Sun Fire V490 サーバーに固有の必須パッチの一覧を示します。これらのパッチは、このマニュアルの発行時点で入手可能なものです。

Solaris 8 がインストールされた Sun Fire V490 の必須パッチ

パッチ ID	説明
109873-25 以降	SunOS 5.8 : prttdiag およびプラットフォーム libprtdiag_psr.so.1 パッチ
109896-25 以降	USB ドライバパッチ
110460-32 以降	SunOS 5.8 : fruid/PICL プラグインパッチ
110614-02 以降	SunOS 2.8 : ses ドライバパッチ
111095-15 以降	SunOS 2.8 : fctl/fp/fcp/usoc ドライバパッチ*

Solaris 8 がインストールされた Sun Fire V490 の必須パッチ (続き)

パッチ ID	説明
111096-08 以降	SunOS 2.8 : fcip ドライバパッチ*
111097-14 以降	SunOS 2.8 : qlc ドライバパッチ*
111412-13 以降	SunOS 2.8 : Sun StorEdge Traffic Manager パッチ*
111413-12 以降	SunOS 2.8 : luxadm、liba5k、および libg_fc パッチ*
111792-09 以降	picl プラグインパッチ
111846-08 以降	SunOS 2.8 : cfgadm パッチ*
111847-08 以降	SAN Foundation Kit パッチ*
111883-24 以降	SunOS 5.8: GigaSwiftEthernet ドライバパッチ
116962-01 以降	pcisch ドライバパッチ
116975-01 以降	SunOS 5.8: kadb パッチ
117000-05 以降	SunOS 5.8: kernel パッチ

* パッチ 111095、111096、111097、111412、111413、および 111846 には、パッケージ SUNWsan (SAN Foundation Kit) が必要です。SUNWsan パッケージは、次の Sun Download Center から入手できます。

<http://www.sun.com/storage/san/>

このサイトから、最新の SAN リリースのソフトウェア/ファームウェアアップデートをダウンロードしてください。

Solaris 8 の推奨ソフトウェアパッチ

次の表に、Solaris 8 02/04 オペレーティングシステムがインストールされている Sun Fire V490 サーバーに固有の推奨パッチの一覧を示します。これらのパッチは、このマニュアルの発行時点で入手可能なものです。

Solaris 8 がインストールされた Sun Fire V490 の推奨パッチ

パッチ ID	説明
108813-17 以降	GEM パッチ
117255-01 以降	RSC 2.2.2 パッチ

ハードウェアの問題

この節では、Sun Fire V490 サーバーに関連するハードウェアの問題について説明します。

ファントレーはホットプラグ対応でないため、システムの動作中に取り外さない

CPU ファントレー (FT 0) および PCI ファントレー (FT 1) は「ホットプラグ対応」の部品ではないため、システムの動作中にはどちらのファンも取り外さないでください。ファントレーのホットプラグを行うと、システムのハードウェアに損傷を与える可能性があります。システムの電源が入っているときにファンを取り外そうとすると、怪我をする危険性があります。

M6 ねじを使用する必要があるキャビネットへのサーバーの取り付け手順

M6 ねじを使用する必要があるキャビネットにサーバーを取り付ける場合は、『Sun Fire V490 サーバー設定およびラックマウントの手引き』の手順に従ってください。この手順の 10-32 ねじを使用している場所で、ラックマウントキットボックスに入っている M6 ねじを使用します。M6 ねじには、プラスのねじ回し (Phillips の 2 番) を使用してください。正面トリムパネルに 10-32 脱落防止機構付きねじが付いている場合は、サーバーをキャビネットに取り付ける前に、そのねじを M6 ねじに交換します。

サーバーと SC カードのシリアル接続には、シールド付き RJ-45 ケーブルを使用する

Sun Fire V490 サーバーの出荷キットには、専用のシールド付き RJ-45 ケーブルが 2 本含まれています。サーバーおよび SC カードのシリアル接続の設定には、このケーブルを使用してください。

ソフトウェアの問題

この節では、Sun Fire V490 サーバーに関連するソフトウェアの問題について説明します。

Sun Remote System Control (RSC) 2.2.2 ソフトウェア

Sun Fire V490 サーバーは、システムコントローラ (SC) カードが取り付けられた状態で出荷されます。

Sun™ Remote System Control (RSC) 2.2.2 ソフトウェアとシステムコントローラ (SC) ハードウェアを一緒に使用した場合の動作の概要を、次に示します。

- SC カードは、オンボードモデムを装備していません。RSC 2.2.2 ソフトウェアのモデム/ポケベル用のコマンドおよび変数は、SC カードでは機能しません。これらのコマンドおよび変数は、『Sun Remote System Control (RSC) 2.2 ユーザーマニュアル』に記載されていますが、Sun Fire V490 サーバーの SC カードではサポートされません。
- SC カードは、システムバックアップバッテリーを装備していません。SC カードには、サーバーの 5 V のスタンバイ電力から直接電力が供給されます。サーバーが AC コンセントに接続されているかぎり、サーバーの電源が切断された場合またはスタンバイ状態の場合でも、SC カードは動作します。

SC ハードウェアとともに RSC 2.2.2 ソフトウェアを使用する方法の詳細は、『Sun Fire V490 サーバー管理マニュアル』を参照してください。

OpenBoot PROM の診断操作の拡張

OpenBoot PROM バージョン 4.15 で提供される診断機能は、デフォルトで有効になっています。電源投入時には、すべての OpenBoot 診断が実行されます。拡張された診断や、新規および再定義された構成変数、新しい標準 (デフォルト) 構成の詳細は、『OpenBoot PROM Enhancements for Diagnostic Operation』を参照してください。このマニュアルは、Sun Fire V490 サーバーに付属の Sun Fire V490 マニュアル CD に収録されています。

これらの診断は、サーバーに関する情報を検出して報告するいくつかのアプリケーションの動作を変更します。たとえば、Sun Remote System Control (RSC) ソフトウェアの報告機能およびコンソール機能が、この診断によって一部変更されます。これらの変更の詳細は、7 ページの「Sun Remote System Control (RSC) 2.2.2 ソフトウェア」を参照してください。

また、診断は起動時のサーバーの LED の動作も変更します。電源投入時自己診断 (POST) の実行中は、ロケータ LED とシステム障害 LED が同時にゆっくりと点滅します。POST が完了して OpenBoot 診断が実行されると、LED は通常の機能に戻ります。

注 – 拡張診断によって、起動時間が長くなる可能性があります。

Sun Management Center ソフトウェアのサポート

Sun Management Center ソフトウェアのバージョン 3.5 Product Update 1 は、Sun Fire V490 サーバーをサポートします。Sun Management Center ソフトウェアの詳細は、『Sun Management Center 3.5 VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) のための追補マニュアル』を参照してください。

Sun StorEdge Traffic Manager ソフトウェア

Sun StorEdge Traffic Manager ソフトウェアは、複数のプラットフォームでのマルチパス I/O フェイルオーバー、フェイルバック、および SAN 環境全体での負荷均衡を自動化します。また、このソフトウェアによって、動的なデータベースの構成を行うこともできます。このソフトウェアは、基幹となる SAN 環境での、入出力性能の改善、可用性の向上、および管理時間の節約に役立ちます。

Sun StorEdge Traffic Manager ソフトウェアの詳細、機能のインタラクティブツアー、および使用する環境に適した製品の価格の確認および購入については、次の Web サイトを参照してください。

http://www.sun.com/storage/software/storage_mgmt/traffic_manager/index.xml

マニュアルに関する注意事項

Sun Management Center 3.5 のサポート

『Sun Management Center 3.5 VSP High-End Entry サーバー (ワークグループサーバー) のための追補マニュアル』には、Sun Fire V490 のサポートについて明記されていません。しかし、このバージョンのソフトウェアは、Sun Fire V490 サーバーをサポートします。

OpenBoot ファームウェアのマニュアル

Sun Fire V490 サーバーでは、OpenBoot 4.15 システムファームウェアを使用しています。ファームウェアの使用方法については、『OpenBoot 4.x Command Reference Manual』を参照してください。このマニュアルは、次の Web サイトの「Sun ハードウェア対応 Solaris」から入手できます。

<http://docs.sun.com>

Sun GigaSwift Ethernet Adapter のマニュアル

『Sun GigaSwift Ethernet Adapter Installation and User's Guide』(Part No. 816-1702-11) には、Sun GigaSwift Ethernet UTP アダプタと Sun GigaSwift Ethernet MMF アダプタの取り付けおよび使用に関する情報が記載されています。また、このマニュアルでは、システムの Ethernet デバイスドライバソフトウェアの設定方法についても説明しています。

このマニュアルには、`/platform/sun4u/kernel/drv` ディレクトリに `ce.conf` ファイルを作成する方法が記載されています。これは、Sun Fire V490 サーバーのオンボードネットワークインタフェースを設定する場合に推奨される方法です。

注 - `/etc/system` ファイルを使用した Sun GigaSwift Ethernet アダプタドライバのパラメタの設定は、サポートされていません。

このマニュアルは、次の Web サイトから入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Connectivity

RSC マニュアルの場所

Solaris オペレーティングシステムおよび Solaris ソフトウェアサプリメント CD のソフトウェアをインストールすると、Sun Remote System Control (RSC) マニュアルのオンライン版へのアクセスが可能になります。Solaris オペレーティングシステム内の次の場所に、『Sun Remote System Control 2.2 ユーザーマニュアル』の PDF 版があります。

```
/opt/rsc/doc/<locale>/pdf/user_guide.pdf
```

Microsoft Windows ベースの PC に RSC ソフトウェアをインストールすると、Microsoft Windows 環境内の次の場所に、適切なユーザーマニュアルが保存されません。

```
C:\Program Files\Sun Microsystems\Remote System Control\doc\  
<locale>\pdf\user_guide.pdf
```

RSC のマニュアルは、サーバーに付属の Sun Fire V490 マニュアル CD や、使用している Solaris リリースの Solaris ソフトウェアサプリメント CD にも収録されています。

制限事項

この節では、Sun Fire V490 サーバーに関連するバグおよび例外事項について説明します。多くの場合、これらのバグを修正するソフトウェアパッチが提供されています。入手可能なパッチの情報については、SunSolve Online Web サイトにアクセスするか、ご購入先にお問い合わせください。詳細は、3 ページの「必須および推奨ソフトウェアパッチ」を参照してください。

OpenBoot PROM 拡張診断が有効である場合、または制御スイッチが診断位置に設定されている場合に、警告が表示されずに RSC コンソールがシステムコンソールに切り替わる

service-mode? が true に設定されていると、rsc-console 出力は自動的にサーバーのコンソール (ttya) に送信されます。このとき、RSC コンソールは RSC コマンドにตอบสนองしていないように見えます。Sun Fire V490 サーバーの正面パネルのシステム制御スイッチが診断位置に設定されているときに RSC を使用した場合にも、この動作が発生します。これは正常な動作で、出荷時に設定されています。

『Sun Fire V490 サーバー管理マニュアル』に記載されているように、システム制御スイッチを標準に設定すると、`rsc-console` 出力を RSC コンソールに切り替えることができます。このマニュアルは、サーバーに付属のマニュアル CD に収録されています。

オンボードの Ethernet ポートは Gigabit の半二重モードで動作しない

オンボードの Ethernet インタフェースは、Gigabit の半二重 (1000HDX) モードをサポートしていません。Gigabit の全二重モードは完全にサポートされています。

SunVTS の実行中、`loghistory` でディスクエラーが報告されるが、SunVTS または Solaris ではエラーが報告されない

SunVTS ソフトウェアおよび RSC ソフトウェアを同時に実行している場合、`loghistory` コマンドを使用するとディスクエラーが報告されても、SunVTS テストではエラーが表示されない場合があります。これは、テストの実行中に SunVTS が RSC の監視を中断できないために発生します。RSC は、各状態の変更をディスクエラーとして報告します。SunVTS がテストを実行していないときは、このメッセージは表示されません。

ce0 および ce1

Sun Fire V490 サーバーは、システムのセンタープレーンに、10 Mbps、100 Mbps、または 1000 Mbps で動作する 2 つのオンボード Ethernet インタフェースを備えています。背面パネルにある RJ-45 コネクタが付いた 2 つのポートを使用すると、このインタフェースに接続できます。

一部のソフトウェア出力では、Ethernet インタフェースは `ce0` および `ce1` として表示されます。

- `ce` は Ethernet デバイスドライバの名前です。
- `0` および `1` は、2 つのインスタンスの番号です。

負荷が高い状況で sync-TTCP テストを使用すると、GEM インタフェースが接続を切断する

サーバーに過度のネットワークの負荷がかかっているときに sync-TTCP Test Suite ソフトウェアを使用すると、Gigabit Ethernet (GEM) インタフェースが接続を切断する場合があります。この状況が発生した場合は、次の手順を実行してください。

1. テキストエディタを使用して、`/etc/system` ファイルを開きます。
2. ファイルに次の行を追加します。

```
set ge:ge_put_cfg=0
set ge:ge_nos_tmds=8192
```
3. ファイルを保存して閉じます。
4. サーバーを再起動します。